



目次	説教 畑を買うエレミヤの祈り	河野 行秀	1
	大信仰問答 CATS・愛 ^⑬		
	エッセイ「第7章 昇天」	真田 泉	2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(7)	後藤 憲正	3
	教会、この地とともに ^⑤ 室蘭教会		
	福音の種 いまもこれからも	室蘭教会小会	4
	SDGsについて考える ^③		
	すべてが満たされるために	石東 岳士	5
	次世代へのメッセージ ^⑦		
	沖縄伝道において考えること	川越 弘	6
	こいのにあ 東京告白教会牧師就職式	小塩 海平	7
	浦和教会牧師就職式	松谷 信司	7
	帆足主基夫先生 追悼文	五十嵐善和	7
	教会ニュース		8

畑を買うエレミヤの祈り

それにもかかわらず、主なる神よ、あなたはわたしに、「銀で畑を買い、証人を立てよ」と言われました。この都がカルデア人の手に落ちようとしているこのときにです。(25節)

こうのゆきひで
河野行秀

エレミヤは主イエスが登場するよりも約600年も前の預言者です。預言者は特異な体験をします。象徴的な体験とっていいものです。エレミヤは畑を買うという行動に出ますが、この行動に神の意図が含まれています。通常、預言というのは言葉で示すのですが、ここでは彼の行動に預言としての意味があるのです。エレミヤが置かれている状況が記されています。「そのとき、バビロンの王の軍隊がエルサレムを包囲していた。預言者エレミヤは、ユダの王の宮殿にある獄舎に拘留されていた。ユダの王ゼデキヤが、『なぜ、お前はこんなことを預言するのか』と言って、彼を拘留したのである」(2-3節)。

エレミヤは獄舎に拘留されていた。そこに、彼の親戚の者が来て要求します。「アナトトにある私の畑を買い取ってほしい」と。買い取れといっても、時期が悪いのです。戦争が始まろうとしている。アナトトの村を通過して、毎日カルデアの軍隊がエルサレムに向かっていく。敵国に占領されていくことが目に見えているときに、その土地を買って何の意味があるのか。ただ、エレミヤは、親戚の者からそう求められる前に、神から啓示を受けていました。「親戚の者が来るから、言われるままに畑を買いとれ。その準備をしておくように。証書を書くように」と。彼は、ついにその時が来たのか、と受け止めて、金を払い証書を書きます。二通、書きました。ひとつは素焼きの器に入れて、畑に埋め戻す。もう一つは手元に置く。ただ彼は獄舎にいましたので、彼の秘書であるバルクにそれを託します。

ユダの民は50年間、バビロン捕囚を経験すること

になります。その後、捕囚からの解放となり、再び、カナン^{カナン}の地に戻ってくる者たちがいる。その時に、器に収められて畑に埋められている証書が役に立つ。エレミヤの祈りの続きに神の答えが記されていますが、その中に「この国で、人々はまた畑を買うようになる」(43節)とあります。国は滅びるけれど、神がまたこの国に帰って来られるようにしてくれる。そして畑を買い戻すことになる、というのです。

この事件が、私たちにどういう意味があるのかということですが、ここに二つキーワードがあります。「畑を買う」、そしてもう一つは「剣、飢饉、疫病」です。私たちの生きている時代は、エレミヤの時代と確かに世界は変わっています。しかし、根底的なことは変わらない。同じことが問われています。剣、つまり戦争です。戦争が始まれば国土は荒れ、飢饉となり、疫病が蔓延します。私たちの世界を、この「剣、飢饉、疫病」という視点で見直していくと、いろんなことが分かるのではないかと思います。そして、神は「あなたも畑を買いなさい」と言われています。わたしの土地は、神の国、天国です。「わたしたちの本国は天にあります」(フィリピ3:20)と、パウロは言いました。そして、すでに神の畑を買いとっている読者の皆様方も、あなたの友人、家族、子供に「あなたも畑を買いませんか」「あなたも神の家族に入りませんか」と呼びかけるのです。主は、ご自分の民を失う苦しみを通して、畑を買い戻す道を備えようとされていたのです。(北海道中会教師)